

ご挨拶

会長 藤井 輝夫 (生産46年卒)



会員の皆様方には、平素より常盤工業会の事業運営に対しご支援ご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

さて、2018年もあっという間に過ぎようと

しています。ふり返れば災害が多かったことに改めて心を痛めます。豪雨、台風、地震、過去に経験したことのない猛暑等が日本列島をこれでもかと痛めつけました。災害に見舞われた会員の皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興、復旧を願っております。

小松左京の「日本沈没」というSF小説は日本の未来を予見していたのではとの思いが頭をよぎるのは私だけでしょうか。このような地球規模の災害は自然との闘いですが、近い将来には災害の予知、予防、対策のための技術が科学の力を結集して実現されるものと信じています。また、地球から宇宙へと壮大な空間を相手にした技術開発も求められています。そしてその開発に大きな役割を担うことを求められている知見の場が大学です。しかしながら、今や大学は少子化による学生数の減少という状況の中で如何にして生きのびていくかという大きな課題に直面しています。大学と社会が強い連携をとって様々な課題に挑戦していくことがこれからの大学の生きる道ではないかと思っています。

常盤工業会は大学の工学教育および研究の振興を図るため各種支援事業を計画的に実施しています。特に給付型の「常盤工業会奨学金制度」は学生が研究に没頭できるよう継続的に実施しているところです。これも会員皆様方からの会費を原資としているものです。

会員の皆様には感謝申し上げるとともに今後ご協力よろしくお願いいたします。

「常盤」81号で浜本副会長も述べていますが、今年度から3ヶ年計画で「情報管理プロジェクト」「地域同窓会立ち上げプロジェクト」「会員へのサービス検討プロジェクト」の3つのプロジェクトを発足しました。中でも地域同窓会立ち上げについては、過去にもいろいろ対策を講じてきましたが、もう一度腰をすえて考えていこうと思います。お住まいになられている地域に同窓会組織があればとお考えの方がおられましたらぜひ事務局に声をかけてください。

今年も工学部ホームカミングデーと常盤祭が11月17日に開催されます。第2回目の開催となりますが、学生と卒業生との交流が様々な形でより活発に行われるものと思います。次号83号で報告をさせていただきます。

さて、今年度は次期代議員を選出する代議員選挙が実施されました。選挙結果につきましては次頁に掲載しておりますのでご参照ください。選出された代議員の皆さま、4月よりよろしくお願いいたします。

若者の同窓会離れが目立っていますが、「常盤工業会は違うぞ」と胸を張って言えるように色々な対策を講じていきたいと考えています。会長就任時にも申しましたが、大学との情報交換を密にし、支援活動はもとより社会に飛び立っていく学生たちが各自の思い描く道を歩くことができるよう、また同窓生の腕(かいな)をガッチリ組めるような常盤工業会にしたいと考えています。皆様のご協力ご支援どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしご挨拶いたします。

(平成30年10月 記)